



石川県 健民運動

1 月号

《28. 1. 31第237号》

かわら版



毎月7日は「健康の日」です。
～ 歩くことから健康づくり、運動することを習慣にしましょう ～

- 鼓動 家庭の日をテーマにした「川柳」について
石川県婦人団体協議会 会長 藤多 典子
(ふるさとづくり推進委員会委員長)
- 平成27年度石川県健民運動「青少年ボランティア賞」表彰式
- 健民運動活動紹介
- 2・3月の健民運動カレンダー
- 薫風 Road to Paris
石川県パタンク・ブール協会 会長 吉田 歳嗣
- 「あいむ」だより

鼓 動

石川県婦人団体協議会

会長 藤多 典子

(ふるさとづくり推進委員会委員長)

家庭の日をテーマにした“川柳”について

石川県では、毎月第3日曜日が「家庭の日」と定められています。
この日をたくさんの方々に認識していただき、一家庭一家庭があたたく充実することを願って、毎年、家族を題材にした“川柳”を募集しています。

大変多くの方々から応募があり、応募者一人一人の家庭の様子や家族に対する想いの深さに改めて敬服しました。

一句一句を読み進めると、各家庭での食事の様子や、入浴の様子、兄弟げんかの様子などが目に見えるようで、思わず笑顔がこぼれました。

考えながら川柳を作ることで、改めて両親や兄弟姉妹、祖父母のことを考える時間を持つことは、とても大事な“ひととき”だと思います。このひとときを多くの方々に持っていただき、笑顔あふれる家庭が多くなることを願っています。

皆さんも一句投句してください。



審査会の様子（平成27年10月22日）

応募作品総数 1, 739

小学生の部	812
中学生の部	436
一般の部	491

平成二十七年最優秀賞作品

○小学生の部 七尾市立石崎小学校 牧野姫那さん

支え合う 見えない絆 家族の輪

○中学生の部 石川県立錦丘中学校 澤崎愛叶さん

しかられて いても感じる 親の愛

○一般の部 端河潔さん

何もかも 許し溶け合う 家族の輪

◇ 青少年ボランティア賞表彰式

1月15日（金）に、平成27年度の「青少年ボランティア賞」表彰式が行われ、本部長の谷本知事が7団体・1個人に表彰状を授与しました。

この賞は、自発的に自分の技能や時間を提供して社会に参加し、地域や学校、職場において、ひたむきに他人や社会に貢献する活動を行う青少年又は団体を表彰することにより、次代を担う心豊かでたくましい青少年の育成を図ることを目的としています。

平成7年から今年度で21回目を迎え、今年度の受賞者を含めて、これまでに延べ168団体、42個人が表彰されており、ボランティアの輪が広がっています。

表彰式の後、谷本知事を囲んで、受賞者や関係の皆さんとの懇談会が行われ、活動の内容やボランティアの楽しさ・難しさ、その中で感じたこと・学んだこと、これからの活動のあり方等についての報告が行われ、谷本知事から感想やアドバイスが寄せられました。

受賞した団体と個人の皆さんは、次のとおりです。

【団体表彰】

- 金沢市立中央小学校児童会
- 金沢市立明成小学校児童会運営委員会・環境整美委員会
- 加賀市立東和中学校生徒会
- 石川県立金沢辰巳丘高等学校JRC部
- 石川県立能登高等学校JRC部
- 遊学館高等学校サッカー部・硬式野球部
- 災害ボランティア・サークルふたば（石川県立看護大学）

【個人表彰】

- 光あゆか（石川県立門前高等学校家庭部）



○受賞者と知事との懇談

金沢市立中央小学校児童会 6年 伊藤颯伽さん・5年 奥村基香さん

中央小学校では、義援金を東日本大震災の被災地に贈る取組をしています。各家庭から出るアルミ缶の回収を児童会のメンバーが全校に呼びかけて、毎朝アルミ缶集めを行い、昨年度は180キログラム、約2万円を被災地の学校に寄付しました。また、全校の防災意識を高めるため、3月11日前後に防災集会を行い、児童会が被災地の当時の様子や現在の様子を伝えています。この集会を通して被災地に生きる人や被災地のためにできることは何かということについて改めて考えています。



アルミ缶集めで缶がなかなか集まらない時、アルミ缶を持ってきてくれる人がいると、やっつけてよかったという気持ちになります。被災地の学校からのお礼のメッセージが届くと、とてもやりがいを感じます。これからも東日本大震災のことを忘れず、この活動を続けていきたいと思います。



金沢市立明成小学校児童会運営委員会・環境整美委員会

6年 永田怜也さん・吉田圭佑さん

挨拶運動は4・5・6年生の運営委員会が行っている活動で、毎朝玄関前に立って、挨拶運動を進めています。「目を見て、笑顔で、大きな声で」がキーワードです。月に1度の「挨拶の日」には、担当のクラスが全員で挨拶運動を行っています。清掃活動は、4・5・6年生の環境整美委員会の活動で、毎朝児童玄関の周囲の清掃活動を行っています。挨拶運動を通して、自分から進んで挨拶をするとうすがい気持ちになることを学びました。一方で、挨拶をみんなが返してくれるようになることの難しさを感じています。清掃活動では、毎日たくさんの落ち葉や泥を掃除しています。地域の人も使う学校の前の道路を毎日きれいにするのは大変ですが、頑張っていこうと思います。



これからは、挨拶することの良さを伝え、学校のみんなが自分から挨拶するように、また、清掃ではごみなどを見つけた人が自分で始末するようになるように、活動を続けていきます。



加賀市立東和中学校生徒会

3年 畑美沙さん・平井友也さん

生徒会では、小学校との連携活動・地域貢献活動・募金寄付活動などを中心として様々な活動に取り組んでいます。また、よりよい校風への改革をめざした活動も行っています。校区の3つの小学校に出かけて児童会との合同挨拶運動を行い、その機会にプルタブやペットボトルキャップなどの回収も手伝っています。

地域貢献では加賀市環境安全課からの要請を受けて、美しい町づくり街頭啓発キャンペーンに協力し、加賀温泉駅で清掃活動を行いました。地域の皆さんと清掃した後は、たいへんすがすがしく良い気持ちになりました。募金寄付活動では、



学校にリサイクルボックスを常設して、プルタブやペットボトルキャップなどの回収を行っています。回収したプルタブなどを社会福祉協議会に贈り、車いす購入に役立ててもらっています。地域の人に出会える場所で活動した生徒は、学校外の人との親交を深めることができ、充実感を感じています。



生徒会が中心となって行ってきたボランティア活動は、学校全体にも少しずつ広がってきています。これは地域にとっても、学校にとっても良いことで、これまでの成果を踏まえて、これからも生徒会が中心となってボランティアへの意識を学校全体に広げ、活動をより充実したものにしていきたいと思います。ボランティア活動を通して東和中学校を地域に発信していきたいと思います。

【谷本知事の感想とアドバイス】



われわれの生活は、地域社会においてお互いが助け合い、支え合い、相手を思いやる気持ちを持つことで成り立っている。それがないと地域社会全体の発展につながらない。

中央小学校・明成小学校・東和中学校では、それぞれの学校でさまざまな活動をしているが、日々の取組は小さなささやかなものであっても、継続していくことが大事だ。これが何かあった時に助け合う精神として発揮される。何も起きない普段から地域内での関係を作っておくこと、常日頃からお互い支え助け合う気持ちを持っていろいろなボランティア活動を行っていくことが大切だ。

このことは、災害が発生した時に端的に表れる。9年前の能登半島地震では、全壊・半壊の家屋が3千ほどあったが、倒壊した家屋の下敷きになって死亡した人はゼロだった。地域全体でそれぞれの家の家族情報を共有していたため、安否確認がスムーズに行われた結果である。都市化が進み近所づきあいや連帯感が希薄になっていた阪神淡路大震災における神戸とは対照的だった。

地域全体で日頃から連絡を密にしていることが非常に重要だ。お互いに助け合い支え合うこと、無償の奉仕、このことを考え実行に移すこと、相手の立場を思いやること、これらの気持ちが強いほど地域社会の安心安全につながり、住みやすい地域づくりにつながる。東日本大震災で一晩の停電を経験した東京では、その後高層マンションの防災訓練に多くの住民が参加したという。震災経験により地域の連帯感が変わった。ボランティアの継続は、いざという時に非常に役に立つ。具体的な活動はお互いの連帯感を作り上げることに繋がっている。

そして、活動している人は、その活動を後に続く人に伝えて行かなければならない。「継続は力なり」だ。

県立金沢辰巳丘高等学校JRC部 2年 平岡なつ海さん・中島あすかさん

JRC部では募金活動や児童施設の訪問、救急法の学習をしています。主な活動は児童施設の訪問で、毎週金曜日に近くの保育園に行き、子どもたちと遊んだりしています。また、夏休みには障害者施設を訪問し、知的障害のある子どもたちと遊んだり、生活の支援をしたりしています。夏休みは保育園にも出かけ、イベントや工作の手伝いをしています。地域活動では、バザーや模擬店などの手伝いをしています。募金活動では24時間テレビのチャリティー募金や冬のNHK助け合い募金に協力し、暑さにも寒さにも



負けず頑張っています。



児童施設や障害者施設では、これまであまり関わったことのない子どもたちと関わるのでとても苦勞していますが、積極的に頑張っています。

ボランティア活動だけではなく、三角巾の使い方や心肺蘇生法の練習をしているので、人命救助もできます。心肺蘇生法の練習は、命の大切さを改めて確認できる貴重な時間になっています。

県立能登高等学校 J R C 部 3 年 府坂健太さん・宮藤莉奈さん

J R C 部では、地域に元気を届ける地域貢献プロジェクトを行っていて、地域行事や地域の清掃活動、様々な福祉活動に参加しています。

猿鬼歩こう会には運営ボランティアとして参加しました。新造キリコ担ぎ手ボランティアでは、今年は2年生があばれ祭りに参加しました。海岸清掃ボランティアとして地域の海岸清掃を行っていますが、



きれいになった海岸を見て、やりがいを感じました。毎週月曜日に学校周辺のゴミ拾いをしています。これらの活動を通して地域の人とふれあい、地域の活性化に貢献したいと思っています。



遊学館高等学校 サッカ一部・硬式野球部 3 年 野村政弥さん

サッカー部と硬式野球部では、温かく見守っていただいている地域に少しでも貢献しようと、学校周辺の清掃活動や除雪作業をしています。地域の方々から「ありがとう」と感謝されることで、喜びを見いだすことができます。部員全員がその喜びを見いだせるまでやる気を持ち続けることには、多少苦勞しました。

これらの活動で地域の方との交流が生まれ、生徒たちは



ボランティアを通して、社会性を身につけることができます。これからは、交通指導の取組も行い、活動の幅を広げていきたいと思っています。一人一人が地域社会への貢献を通じて、人と関わり合うことの大切さや温かみを肌で感じて、今後の成長の糧とし、また、選手権大会出場を目指して頑張っていきたいと思っています。



【谷本知事の感想とアドバイス】

金沢辰巳丘高校と能登高校 J R C 部では、ともに創立以来活動が続けていて、歴史が長く、一つの伝統になっている。学校の活動・行事として定着していることは、立派なことで、この活動をずっと後輩に引き継ぐことが大切だ。

こうした活動が盛んで、お互いが助け合い支え合う気持ちが十分浸透している地域ほど、住みやすく暮らしやすい魅力的な地域になると思う。都市化現象で、地域社会の連



帯感が希薄になると、お互いがぎすぎすした関係になり、地域が殺伐としたものになっていく。隣に何が起ころうとも一切関心を持たないという関係は、人間社会としては、あってはいけないことで、人間とは、もともとお互い助け合い支え合わないとは生きていけないものだ。

こうした取組は、本能でできることではない。学習して身につけるものだ。学習して、ボランティアの取組をしっかりと身につけ、これからも継続してほしい。

遊学館高校の除雪活動は立派だ。学校周辺の地域は一人暮らしのお年寄りが多いから、家の周りの除雪は大変だ。消雪装置が行き届いていない場合も多く、除雪をしないと日々の生活も不便である。高校生の力でやるのは簡単だが、お年寄りが自分でやるのは大変だ。

遊学館高校は体育の面でも頑張っていて、体力のある人が多いから、体力を使う一環として除雪をすれば、自分の筋力を鍛えることにもなる。作業によってどの筋力を鍛えるかといういことを考えながら、スポーツ選手としての意識を持って、一種の練習として取り組むと、立派な運動にもなると思うし、しかも、お年寄りから感謝される。

遊学館高校のあたりは都心部の空洞化現象が進んでいるところで、遊学館高校の存在は貴重であり、今の場所で頑張ることは、中心部活性化のための貴重な資源・戦力になる。地域住民から感謝されれば、遊学館高校は、文武両道、地域貢献もしっかりしている立派な学校だと評価を高めることになる。頑張っていて活動が続けてほしい。

災害ボランティア・サークルふたば 2年 平光水城さん・4年 山田純子さん

主な活動として、東日本大震災で被災した宮城県亘理町に年に2度訪問し、仮設住宅に住む方の孤立化防止のために、集まる場所を提供して、話を聞いたり、お茶会を開いたりしています。県内でも災害に強い町づくりのために地元の自主防災訓練に参加し、また、大学祭で三角巾やAEDの応急処置方法の指導を行っています。指導の中でいろいろな応用の処置方法を尋ねられ、自分たち自身も勉強になっています。

被災地の様子を報道で見て衝撃を受け、自分も役に立ちたいと思っていたものの、大学に入学してサークルに入るまでは、機会がなくて被災地活動には参加できませんでした。初めて活動に参加する時は、被災地の人に対する接し方など不安もありましたが、実際に被災地の方



に関わっていくと、とても明るく温かく迎え入れてもらったり、勉強への励ましの言葉をもらったりして、自分自身もとても楽しく活動をしていくことができるようになりました。活動の中では、被災者の方のニーズをつかむということが難しいと感じました。仮設住宅に残る人、復興住宅に転居する人など、人によって違うニーズがあり、それに応じた対応が必要になります。

実際に被災地に行って感じたことや学んだことを多くの人に伝えることで、被災地の人とそれ以外の人との思いの差を埋め、また、万一の被災に備えて今なすべきことを考える機会にしていきたいと思っています。

【谷本知事の感想とアドバイス】

病気の治療に関することが狭義の看護師の仕事だったが、これから高齢化社会になっていくと、医療と介護などの福祉との境界が低くなっていき、看護師は医療の分野だけでなく、福祉や介護の分野にも立ち入って行かざるをえなくなる。病気の治療に加えて、

患者やお年寄りの気持ちに寄り添い受け止めながらケアをしていく能力が求められる時代になっており、幅広い分野の担い手として期待されている。

被災地でのボランティア活動は、看護師としての能力や資質を磨き上げるという点でもたいへん大切だ。看護大学の学生は今後プロになるのだから、訓練を兼ねた形でこうした活動に参加することは、非常に意味があることだ。

ぜひ看護師としての力量の幅を広げてほしい。



光あゆかさん（県立門前高等学校）

高校入学前からボランティア活動に挑戦したいと思っていました。入学後は全校での参道清掃や地域の一人暮らしのお年寄りに年賀状を送る活動に参加しました。返事の年賀状には、「若い子から元気をもらった」というようなことが書かれていて、それがとてもうれしく、その喜びをまた友達と共有するのが楽しくて、一人の一つの行いで、いろいろな人が幸せになれるのだと感じました。

その後、所属する家庭部で自分たちで考案したパンを、地元の雪割草祭や植樹祭のイベントに参加して販売しました。地元の人に来てもらい、声をかけられて、自分たちの活動は地域の人の支えなしではやっていけないと感じ、地域の人たちへの感謝の気持ちを感じました。皆さんの笑顔で励まされ、またいろいろな活動をしてきたいと思うようになりました。

前年度後期に生徒会に所属していた時、地元門前にゆかりのある神奈川県の本山総持寺に行き、すす払いやそこでのリーダー研修会に参加しました。ボランティアの心構えとして、相手のことを思いやり、冷静かつ迅速な対応をとることが大切だと教えてもらい、学校に帰った後、そこで学んだことを全校生徒の前で発表しました。



「3月25日」の能登半島地震の日を、「門前高校ボランティア記念日」に制定しましたが、一人一人がボランティアについてもう一度意識を改め、思いやりの心を持ち直す日になればよいと思っています。そして、自分にできることを地道にこつこつと挑戦するきっかけとなればよいと思います。

大学進学後も門前高校で学んだことを生かして、ボランティア活動を続けたいと思っています。



【谷本知事の感想とアドバイス】

冊子にまとめてあるように、たくさんの活動に取り組んでいることは非常に立派だ。門前高校を愛する気持ちもすばらしい。

卒業後も進学先の大学で、これまで経験し学んだことを生かして、頑張ってほしい。

そして、地元に貢献する人材になってほしい。



◇ 健民運動活動紹介

平成27年度「子ども・若者育成支援のための地域連携推進事業（中央研修大会）」

平成27年11月26日・27日の2日間、国立オリンピック記念青少年総合センターで、内閣府主催の中央研修大会が開催されました。全国から344人の参加がありましたが、当本部からは事務局員と本部員の2人が参加しました。

1日目は、主催者挨拶・行政説明の後、基調講演とパネルディスカッションが行われました。

【基調講演】「家庭・学校・地域が連携した青少年育成」 上野景三 佐賀大学附属教育実践総合センター長・教授

子どもを取り巻く問題が拡大化・深刻化している。生活と家庭が変容し、子どもたちが基本的な生活習慣を身につける場を失っている現状に目を向けなければならない。年に数回の取組では効果がない。子どもたちの日々の生活を変えるべく、できる所から、また、複数の方向からの対処・支援が必要である。

子どもたちに対する大人の行動様式が失われてしまっている。よくよく考えてみると、30年前の日本社会では、当たり前前の風景だったのではないだろうか。子供たちに声かけをする、天候のことについて話題にする、行き先を案ずる。たったこれだけのことだ。たったこれだけのことが、30年の間に、日本社会から消えてしまった。子どもたちを見守り、子どもたちに声をかけ、子どもたちの様子を気にかける。当たり前前の風景が消えてしまったのだ。

当たり前だから気づかない。いつとはなしに、だんだんと目の前から無くなっていく。なくなっても、当面は困らない。だから、直そうともしない。直そうともしないから、子どもたちは、大人のまなざしを気にかけることはなくなってしまったのだ。



【パネルディスカッション】

○岸祐司 秋津コミュニティ顧問



幼稚園併設の習志野市立秋津小学校で「学社融合（学校教育と社会教育・地域社会双方の充実を意図し、参画者双方が主体者となる「学びの協働」）を進めている。年間延べ2万人が授業に参画して楽しみ、延べ1.3万人が開放された学校施設（秋津小学校コミュニティルーム）を利用している。

子どもたちは、年間を通して多くの大人とふれあい、さまざまな体験を通して、コミュニケーション能力や自尊感情を向上させ、また、ふるさと意識を高めている。

子縁（こえん）を活かして学校と地域をつなぐ「スクール・コミュニティ」を推進中である。

○鈴木綾 NPO法人ビーンズふくしま理事

ニート・ひきこもり・不登校・貧困・東日本大震災による避難状況下にある青少年とその家族にとって、安心できる居場所・学びの場の創造を目指して、各種支援活動に取り組んでいる。

子ども・若者にとって安心できる居場所とは、「関係や役割を感じ、自己発見をする場」である。小さな地域交流の中で、子どもも大人も役割を持ち、子どもと大人の繋がり（地域）を回復する。それをコーディネートするのがユースワーカーの仕事である。

○高坂朝人 NP0法人再非行防止サポートセンター愛知理事長

ちょっとしたきっかけで13歳から非行少年になり、自分は変わらないと思い、暴走族、刺青、暴力団準構成員に逃げた。24歳の時、子どもができたことをきっかけに「このままでは娘を不幸にする」と思い、愛知県に逃れ、「犯罪だけはしない」という自分への誓いを守り通した。25歳から自分の体験をもとに非行少年を支援するボランティアを始め、「非行を行った少年・少女の本音と希望を基に立ち直り支援を実施し、再非行を減らし、笑顔を増やす」活動に取り組んでいる。

非行少年は、正しい言葉を聴きたいのではなく、信頼できる人の言葉を聴きたい！と思っている。「自分と未来は変えられる。でも一人では変えられない。」だから、再非行防止サポートに取り組んでいる。

2日目は、専門研修会が開催され、午前と午後、参加者それぞれが希望する研修会に出席しました。

○第1研修会「コミュニティ・オーガナイズングを通じたリーダーシップ」 鎌田華乃子 NP0法人コミュニティ・オーガナイズング・ジャパン代表
○第2研修会「青少年育成活動における事故防止～学校事故を参考に」 内田良 名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授
○第3研修会「問題行動を起こす子供との対話のしかたー6ステップで問題行動からまなばせる」 藤野京子 早稲田大学文学学術院教授
○第4研修会「あなたがそばにいと元気になる～人間関係を何倍もよくする「聴く力」を極める」 高塚人志 鳥取大学医学部特任教授・帝京大学医療共通教育研究センター客員教授

中央研修大会に参加して

一般財団法人石川県レクリエーション協会
下川 紀美子

この度内閣府主催の中央研修大会に参加することができ、子どもを取り巻く環境について、あらためて学びの時を与えられ感謝いたします。

1日目の「家庭・学校・地域が連携した青少年育成」についてのパネルディスカッションでは、地域コミュニティの紹介、フリースクールから考えさせられること、再非行防止の取り組み、それぞれの代表の方々の言葉一つ一つが胸をうち、考えさせられる発表でした。

子どもたちを中心として、地域、学校、家庭がどのように連携していけばよいのか、いろんな環境から生きにくいと感じる子どもたちが増えている現在、私たち大人が担う役割は、とても大きいと感じます。そのためにも机の上での話し合いではなく、現場の声と実態を子ども・若者育成に関わるすべての方が知り、話し合うことが必要と感じました。「自分と未来は変えられる」と話されたこの言葉は、強く心に響きました。

子どもに関わる一人の大人として、微力ではありますが思いを傾聴できる人がいることを伝えていきたいと思います。

貴重な研修の時間でした。ありがとうございました。

石川県子ども会連合会指導者研修会

平成27年12月13日（日）に石川県青少年総合研修センターで、石川県少子化対策監室と共催で「私の出会った子どもたち」と題した講演会が開催されました。

講師の砂上昌一石川県同和教育研究協議会会長からは、自身の長い教職経験の中で出会った子どもたちについて具体的なお話があり、障害のある子どもたち・在日朝鮮人の子どもたち・同和地区の子どもたちが受けた差別の現実を理解することができました。また、講演の後、学校や子どもたちを取り巻く社会的な環境についての質疑応答が行われました。



講師の砂上さん



参加者の皆さん



閉会挨拶（正木会長）

◇ 2・3月の健民運動カレンダー H28.1.20現在

2/2 (火)	健康わくわく出前講座 会場：千里浜公民館（羽咋市） 主催：千里浜健康クラブ
2/14 (日)	平成27年度石川県中央・加賀地区子ども会育成指導者研修会 会場：白山市美川文化会館 1階講義室 主催：石川県子ども会連合会、白山市子ども会連合会
2/15 (月)	健康わくわく出前講座第 会場：安原公民館 1階講堂（金沢市） 主催：みどり健康教室
2/27 (土) ～28 (日)	子ども会交歓フェスティバル 会場：国立能登青少年交流の家（羽咋市） 主催：石川県子ども会連合会
2/28 (日)	第8回金沢市3人制ゲートボール大会『リレーションー3（トリプルス）』 会場：野々市スポーツランド「さわやかホール」（野々市市） 主催：金沢市ゲートボール協会
3/6 (日)	MRO杯争奪石川県室内ゲートボール大会 加賀大会・能登大会 会場：野々市市さわやかホール、七尾市田鶴浜室内ゲートボール場、中能登町鳥屋室内ゲートボール場 主催：石川県ゲートボール協会
3/9 (水)	健康わくわく出前講座 会場：白山市千代女の里俳句館 主催：ふれあいサロン東町

□ 参加しましょう！

	期日	大会名（開催地）	会場・主管団体等
石川県民スポーツ・レクリエーション祭 協賛大会	2/21 (日)	ココナ発表会（金沢市）	金沢市総合体育館 主催：NPO法人ココナス ポーツクラブ

薫 風

石川県ペタンク・ブール協会
会長 吉田 歳嗣

R o a d t o P a r i s

日本ペタンク・ブール連盟が、昨年、日本体育協会に加盟いたしました。石川県では、県民体育大会の公認競技として初参加いたしました。又、野球・ソフトボール・空手道などとともに、東京オリンピックへの採用を求めて名乗りをあげました。残念ながら承認は得られませんでした。が、「それってスポーツ」と思われながらも、社会の認知度は少し上がったようです。

ペタンク・ブール競技は、フランスが発祥の地で150年くらいの歴史があり、旧フランスの植民地（嫌な言葉ですが）などで盛んです。

手のひら大の金属製のブール（球体・重量650～800g、直径70.5mm～80.0mm）をビュット（目標物、直径30mm）と言われる目標物に向けて投げ、いかに近づけるかという競技です。陸上のカーリングとも言われますが、ビュットが、ブールにより動く場合があります。意外な結果となることもあります。故に戦術的に様々な工夫が必要となり、大いに知恵を働かさなければなりません。

私達は裾野拡大を目指して、県内各地でルール説明や投げ方などの普及活動をしています。

しかし、高齢者スポーツのイメージが強く、現在は高齢者中心となっております。いつまでも健やかにと、それはそれで良いことと思います。

一方で、パリ・オリンピックを目指して、コート（長さ）を4m×15mから4m×27.5mとより長くして、スポーツ性の高い競技としての取組も始まりました。

パリの空の下、日本代表として石川県からの選手の活躍が私の初夢でした。

R o a d t o P a r i s、皆さん一緒にやりませんか。



華の長崎～秘蔵絵葉書コレクション～に掲載されている絵葉書
（ブライアン・パークガフニ編著）（明治初期）



2015年9月21日～26日、クロアチア国リエカ市で行われた第36回世界スポーツブール選手権リエカ大会に参加した日本代表

「あいむ」だより



＊ 収集物（1月分） ＊ ＜使用済み切手など＞

明るい社会づくり運動金沢ブロック協議会、石川県レクリエーション協会、水産課、計量検定所、総務事務管理室、厚生政策課、匿名の方 の 計 7 件。

ご協力ありがとうございました。
ご提供いただきました使用済み切手、書き損じはがきにつきましては、さまざまな支援を必要としている人々に役立てていただいております。ぜひお寄せください。

お知らせ

『平成27年度 石川県NPO起業実践講座開催事業2月・3月の予定』

【NPO×企業コラボレーション企画 つながり「広げる」石川の種を育てよう！】

NPOと企業がコラボして地域に貢献するこれからのあり方を、事例を通して考えます。ワールドカフェやフィッシュボウルの手法で参加者全員とも意見交換！詳細は決定次第Webでお知らせします。乞うご期待！

日時	2月14日（日）10時～
場所	石川県庁19階展望ホール 金沢市鞍月1-1
定員	50名

【第10回 未来計画書のススメ】

知識や情報は手に入ったけど、行動を起こすには他に何が必要？未来へ向かう活動計画書を作成し、次年度の活動に繋げましょう。事業だけじゃない、あなたの未来が変わるかも！？

日時	3月17日（木）19時～
場所	金沢会場 石川県NPO活動支援センター 金沢市香林坊2-4-30 ラモード7階
定員	20名

参加費：無料

主催：（特）百万石ワールドカフェ

＜詳細情報・参加のお問い合わせ・お申し込み＞

<http://www.hyakumangoku.org/ishikawaseed3/>

石川県NPO活動支援センター（あいむ）月曜日は休館

〒920-0961 金沢市香林坊2丁目4番30号 香林坊ラモード7階

TEL:076-223-9558 FAX:076-223-9559 <http://www.ishikawa-npo.jp/>

会議・打合せ等に「あいむ」をご利用ください！（会議室使用料 無料）

お問合せ、ご予約は上記「石川県NPO活動支援センター（あいむ）」

まで、お気軽にどうぞ。《夜10時まで開館（火～金曜日）》

香林坊地下駐車場をご利用ください。駐車料金を助成しています。



毎月第3日曜日は「家庭の日」です
～ 家族とのふれあいを大切にしましょう ～



毎月7日は「健康の日」です。
～ 歩くことから健康づくり、運動することを習慣にしましょう ～

発行：石川県健民運動推進本部

〒920-8580 金沢市鞍月1丁目1番地 TEL 076-225-1366
石川県県民交流課内健民運動推進本部 FAX 076-225-1363

インターネット



QRコード

E-mail kenmin-i @ pref.ishikawa.lg.jp

twitter @ kenmin_undou